

翔陽

帯広市立翔陽中学校 学校便り 特別号
令和4・8・24発行
校長 海鋒 達也
《学校教育目標》
豊かな心で たくましく ゆめ
意欲をもって 希望を叶えよ

学校経営の取組紹介

新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で、学習機会と学力、全人的な発達・成長等を保障する学校教育の役割が再認識されております。

学校においては、子どもたちの知・徳・体を一体で育む「日本型学校教育」のよさを更に発展させ、子どもたちに未来社会を切り拓く資質・能力を確実に育むことが求められており、本校では「個別最適な学び」（個々の習熟度や興味に応じた学習）と、「協働的な学び」（多様な他者とよりよい考えを生む学習）を充実させる取組を進めてきました。

その様子は、随時、学校だよりやホームページで紹介してきましたが、学校評価（満足度アンケート）の実施にあたり、関係する内容を抜粋して本紙で紹介します。参考にさせていただき、別紙アンケートへのご回答をお願いいたします。

1. 安全指導の取組



(1)交通安全指導 <4月・7月>

4月は特に事故の多い自転車使用についての指導と自転車点検を実施しました。

7月はPTA社会部と連携して「交通安全宣言」集会を学年毎に実施しました。



(2)避難訓練 <5月6月9月11月2月>

コロナ禍での避難経路や「危険を予測し、回避する」行動を確認しています。



(3)コロナ関連学習 <5月>

「病気」「不安」「差別」の感染を絶つための学習を全学年で実施しました。

(4)2学期以降に実施予定

- ①情報モラル教室 <1年>
- ②防犯教室 <2年>
- ③薬物乱用防止教室 <3年>

2. 学力向上の取組

(1)指導工夫で学びの充実へ

①習熟度別少人数指導



<数学少人数指導>

学習の定着をめざし、定着に課題の見られる単元や、単元のまとめを中心に子どもたちから希望を取り、少人数のグループ別（1学級を2グループ）の学習を進めています。

②ICT活用



<タブレットの活用>

大型モニターや、1人1台端末の活用により、個々の習熟度や興味に応じた学習を充実させるなど、効果的な指導工夫を進めています。

③放課後学習会



<スタディサプリ学習会>

今年度より導入したスタディサプリを活用した学習会を定期的実施し、自分の課題に合わせて動画視聴や問題を解いて学習しています。

④長期休業学習会



<はばたき学習クラブ>

夏冬休みに学習会を実施し、宿題や課題、スタディサプリに取り組んでいます。

<実験教室>

普通の授業ではなかなかできない発展的な実験を行い、より広く、より深い学びとなるよう進めています。

(2)よりよい授業を目指して

本校では、研究テーマ「物事を多角的に捉え、学びを深めることができる生徒の育成」を目指し、計画的に校内研修（教員や関係者による授業参観や協議）を行っています。各種テスト結果による個々の達成状況や、職員の自己評価、外部からの助言、生徒アンケートの結果を活用しながら、指導と評価の一体化を目指し、より良い授業づくりを進めています。



<学校評価のお願い> 本校の教育活動にどのような印象を抱かれているかを把握し、その結果を今後の学校経営の充実に生かすことを目的に「保護者による満足度アンケート」（学校評価）を毎年8月・1月に実施しています。以下の要領で実施しますので、ご多用のこととは存じますがご回答をお願いいたします。

<回答の方法>

- ・ **8月26日（金）18時に安全メールを送信します。メールに添付されたURLからご回答ください。**（登録されていないご家庭は別紙にてご回答ください）
- ・ **本紙（学校だより）をご参照の上、一家庭で一回ご回答ください。**（期日は9月7日（水）までです）

(4) 学習習慣の定着を目指して

① 家庭学習の推進

日常的に家庭学習を直向きに取り組み、積み上げていくために、宿題や課題以外にスタディサプリや、学習委員会が作成した家庭学習プリントなどを活用しています。

家庭学習プリントについては、生徒が自ら作成して取り組み、取組状況を記録することで、お互いに刺激し合い、家庭学習への取組意識を高め合っています。

② 自らの取組への振り返り

テスト計画の振り返りや教育相談で、自分を見つめる機会となるよう以下の視点でお話しています。



- ・ 現時点での自分を知り、どれだけ自分が成長したか、これからすべきことは何かを探る機会としてほしい。

話すことで自分の考えが整理され、自分が決めることで行動に覚悟が生まれます。主体的な考えと行動を支援して、背中を押していきます。

(5) 全国学力・学習状況調査より

全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の検証・改善や、学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で、4月19日に3年生を対象として国語・数学・理科で実施されました。（令和4年度の結果は以下の通りです）

<生徒質問紙>

- 国語・数学・理科の勉強について、いずれの教科も「好き」「大切」「将来役に立つ」と感じている生徒の割合が全国より高い。
- 自分には良いところがあり、認められていると感じている生徒の割合が全国より高い。
- 計画を立てて学習している生徒、家庭学習時間が多い生徒の割合が全国より高い。
- △自分の考えをまとめて伝えたり、他者の意見を生かして課題解決をすることができると感じている生徒の割合が全国より低い。

<国語>

- 平均正答率が全国より高い。
- 漢字の行書と書き方についての正答率が高い。
- 助動詞の働き、事象や行動、心情を表す語句など、言葉の特徴や使い方に関する事項への理解が高い。
- △自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題が見られた。

<数学>

- 平均正答率が全国より高い。
- 多数の観察や多数回の試行によって得られる確立についての正答率が高い。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えるなど、知識・技能を問う問題への正答率が高い。
- △判断の理由や、事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

<理科>

- 平均正答率が全国より高い。
- 条件を制御した実験の計画についての正答率が高い。
- 化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことを問う問題への正答率が高い。
- △他者の考えについて多面的、総合的に検討して改善することや、現象を科学的に説明することに課題が見られた。

- ※ これらの結果を分析し、これまでの指導の実態と関連づけながら、指導の改善に結びつけていきます。
- ※ チャレンジテストや学力テスト・定期テスト・標準学力検査等を活用しながら、短期間で検証・改善します。
- ※ 令和4年度の詳細な結果や分析、対策については、後日改めて学校だより等で紹介します。

3. 体力向上の取組

(1) 全国体力・運動能力・運動習慣等調査より

全国的な生徒の体力や運動能力・運動習慣等を把握・分析し、学校における生徒への教育指導の充実や改善等に役立てる目的で、毎年2年生を対象に実施しています。(令和3年度結果は以下の通りです)

<男子> (令和3年度より)

- 長座前屈(柔軟性)で全国より高い。
- 体育の授業が楽しいと感じている生徒の割合が全国より高い。
- △6種目で全国より低く、特に上体起こし(筋力)、反復横とび(敏捷性)に課題が見られた。

<女子> (令和3年度より)

- 50m走(疾走能力)で全国より高い。
- 朝食を毎日食べる生徒、ものごとをやり遂げて嬉しかったことがある生徒の割合が全国より高い。
- △6種目で全国より低く、特に握力(筋力)、反復横とび(敏捷性)に課題が見られた。

※ 令和3年度は緊急事態宣言の発令により、5～6月にかけて部活動が休止となり日常の運動量が減少したため、直後の新体力テストの結果に影響していると考えられます。

※ 今年度の結果については、後日改めて学校だより等で紹介します。

【対策】

・令和3年度の結果を受けて、今年度、主に以下の取組を実施しています。

① 粘り強い補強運動への取組

毎授業の準備体操後に基礎的な筋力・敏捷性を向上させるミニトレーニングを取り入れ、さらに運動量を確保した授業展開を行っています。

お互いに励まし合ったり、成長を認め合う雰囲気が高まっています。

② 「Sリーグ」(翔陽リーグ)の実施

学期毎に、ハンドボールやアイスホッケーなど、異なる球技の学年リーグ戦を実施しています。

生徒は様々な種目の特性や楽しさを味わい、対抗戦を通して仲間意識を高めています。

(2) 感染対策と教育活動

感染状況や国・道の指針により、刻々と対応が変化していますが、その都度、市教委の指導・助言のもと教育活動を進めています。

【写真：3年生の分散給食の様子】

※7月より3年生は2グループに分け、1・2年生は向きや配置を工夫して摂食しています。



4. 豊かな心を育む取組

(1) 協働的な学びの充実

① 心のつながりを生む取組

・体育祭「仲間とつくる感動」

「頑張ることは格好いい」「心を一つに揃えることは素敵なこと」を体現し、仲間を励ます姿、お互いの健闘を讃え合う姿が輝いていました。



・文化祭「心一つに歌声響く」 <10/1予定>

「心を一つに揃えることは素敵なこと」を体現し、表現力や情操を高める活動として企画しています。

② ボランティア活動 <5月～>

グリーン(倶楽部(有志)による花壇整備や落ち葉清掃などの環境整備活動を実施しています。



③ 地域の教育資源を活用した学び

・3年進路学習「高校の先生に聞く」 <6月>

～具体的な進路実現へ～

15校の高校に協力をいただき、説明と質問により自らの進路選択に必要な情報を集めました。



・1年郷土学習「ウォークラリー」 <7月>

～帯広の歴史と文化を学ぶ～

修学旅行の自主研修の予行も兼ねて、グループ毎に施設を訪問し、ふるさと帯広の歴史と文化を調べました。



・2年職場体験学習 <10月予定>

～働く意義、職業観を学ぶ～

36の事業所に協力をいただき、2日間の職場体験を通じて、働く意義や職業観を学ぶことができます。



・おびひろ市民学「SDGs」他
～持続可能な社会のために～



<1年生> 9月、「地域の大人にできること」をテーマに、「認知症サポーター養成講座」を行います。地域包括支援センター職員が講師を務め、人を大切にすることや支え合うために、自分ができることは何かを考える学習を行います。

<2年生> 「SDGs持続可能な社会のためにできること」をテーマに、地域や社会の未来に対して、責任ある行動とは何かを考える学習を行っています。7月にJICAでの「国際協力」の学習、「はぐくむ」での講話や散策による「帯広の森づくり」の学習を行いました。その後、市青年会議所と市環境都市推進課から講師を招いて、自分たちに出来るアイデアの交流やまとめを行います。(写真は昨年の様子)



<3年生> 10月、「帯広市の台所事情」と題して、市財政課職員を講師に招き、帯広市のまちづくりと財政についての学習を行います。

(2)道徳授業の充実

①「考え、議論する道徳」<年間>

アンケートや面談等による生徒の実態を調査し、「関わる・つながる」テーマのもと「考え、議論する道徳」の授業を全教員で担当を決めて実践しています。

②「いのちの学習」<2~3学期>

厚生病院助産師が講師を務め、命や性、思春期の心と体について考える学習を行い、自分と他者を尊重する大切さを学びます。



③「3つの感染を絶つ」特設授業<5月>

- ・「病気」を絶つ → **新しい生活習慣の徹底**
- ・「不安」を絶つ → **不確実な情報を広げない**
- ・「差別」を絶つ → **大変なときこそ助け合い**

< 授業後の生徒の感想 >

- ・感染対策をしっかりして、規則正しい生活をしていきたい。
- ・正しい情報で正しい判断をする。決して広げない。
- ・自分も感染するかもしれない。感染者の気持ちを考え、差別や偏見を言う人がいたら止めたい。
- ・安心して登校出来るように迎えたい。相談にのってあげたい。

(3)将来の自分の姿を考えさせる取組

「職場体験」や「高校の先生に聞く」、教育相談や進路説明会、三者面談を通じて進路について考えを深める機会を設定しています。また、生徒は部活動や地域活動等での出会いから、将来の生き方の刺激を受けています。



(4)集団と自分の関わりを考えさせる取組

①各種アンケートの結果より <6月>

(生活習慣、いじめや自己有用感の調査)

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている … 48%
- ・家の約束を守ってスマホ等を使用している … 28%
- ・「いやな思い」があった … **2%**
- ・困っても誰にも相談しない … **8%**
- ・誰かの役に立っていると思う … **17%**

・「いやな思い」を積極的に認知し、面談を通じて、人との関わり方や距離感、今後すべきことについて考えさせる機会を設定しています。

・困ったときの解決法を考えさせています。回避することは緊急時には有効です。でも、本当に解決するには相談することが大切だと伝えていきます。

・協働的な学習を通して、一人一人の「存在そのものが尊い」こと、違いや良さを認め合い、自己有用感を高め合うことで学校生活を楽しく豊かなものにする意識を促しています。

②アセス調査(学校適応感の調査) <5月>

学級全体と生徒個人の適応感を調べ、SOSのサインや、集団の中の関係性について確認し、指導・支援の参考にしています。



③教育相談 <5月>

学習や生活、人間関係、部活や進路など、生徒が相談したいことを記載した教育相談シートを基に実施します。

・人との関わり方や距離感とは人と関わって学ぶもの。人との関わり方や将来の姿など、いまの自分と向き合い、これからすべきことは何か、将来どんな生き方をしたいか、考えを深める機会としてほしい。

※ **以上を参考にいただき、満足度アンケート(学校評価)への回答をお願いいたします。**